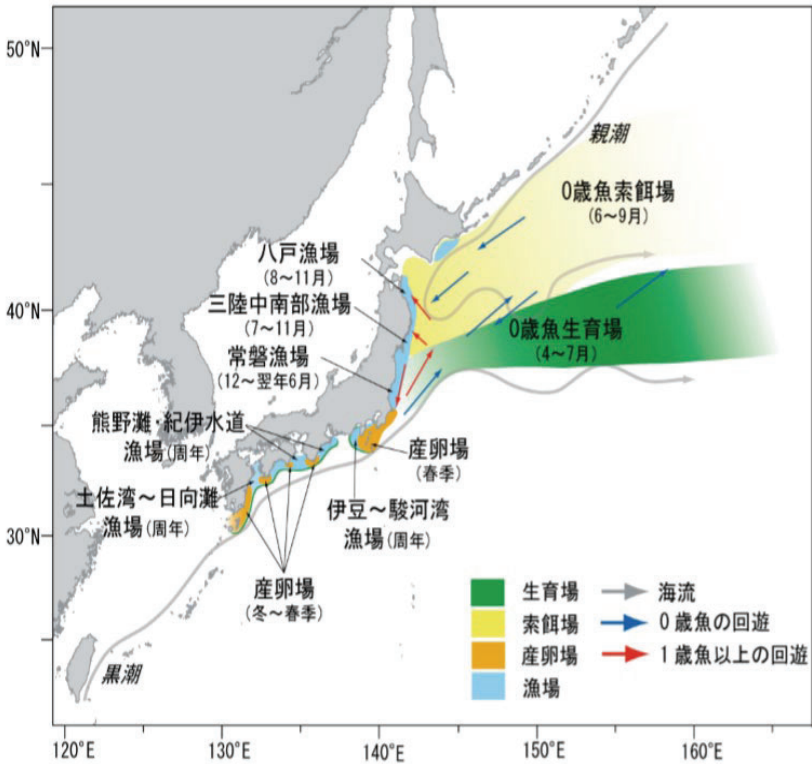




# ゴマサバ太平洋系群 令和2年度資源評価結果

1

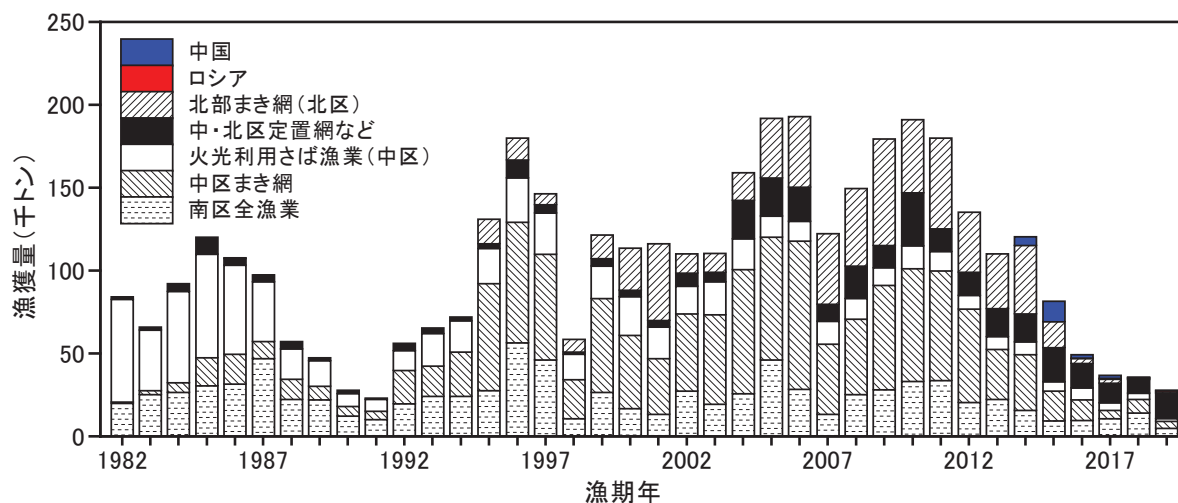
## ゴマサバ太平洋系群 生物学的特性



- 生物学的特性**
- 寿命：6歳程度
  - 成熟開始年齢：2歳 (100%)
  - 産卵期・産卵場：12～翌年6月、伊豆諸島周辺以西の黒潮周辺域
  - 食性：仔稚魚期には浮遊性甲殻類、イワシ類のシラスなど、幼魚期以降は浮遊性甲殻類、小型魚類、イカ類など
  - 捕食者：幼魚期まではカツオなどの大型魚類等

2

# 漁獲の動向



## ● 漁獲量

- ・2010年漁期に19.1万トンと高い値を示した後は減少傾向。
- ・2019年漁期は2.8万トン(我が国漁獲量は2.7万トン)。

3

# 資源評価の流れ

2019年漁期までの年齢別・年別漁獲尾数、資源量指数

チューニングVPA (※)、自然死亡係数Mは0.4を仮定

2019年漁期までの年齢別・年別資源尾数、年齢別・年別漁獲係数

※チューニングVPA：調査船調査結果やCPUE等の資源量指数を用いて補正したコホート解析

2020年漁期への前進計算 (※) ※前進計算：2019年漁期の漁獲量に基づき、2020年漁期の資源状況を予測

2020年漁期の年齢別資源尾数、親魚量

2020年漁期の新規加入量の仮定  
本系群に適用した再生産関係と親魚量から算出

2021年漁期への前進計算、2020年漁期の漁獲率は現状のFを仮定

2021年漁期の年齢別資源尾数、親魚量

2021年漁期以降の新規加入量の仮定  
本系群に適用した再生産関係と、将来予測における年々の親魚量から算出

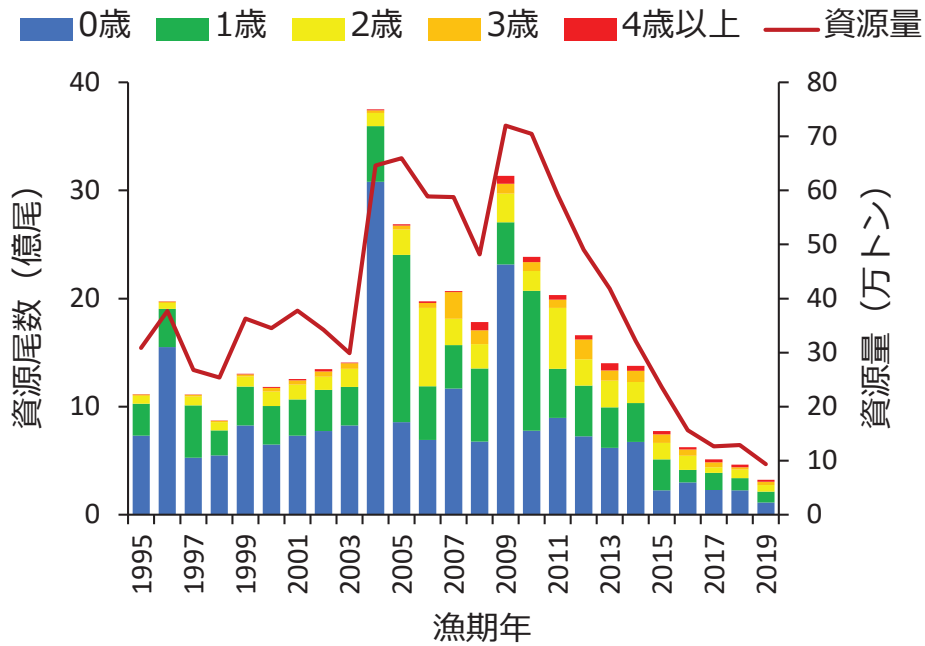
漁獲シナリオのもとでの将来予測 (安全係数 $\beta=0.9$ )

2022年漁期以降の年齢別資源尾数、親魚量、目標達成確率等の予測

2021年漁期の漁獲量  
2021年漁期の親魚量予測値から、 $\beta=0.9$ に対応して算出される漁獲量

4

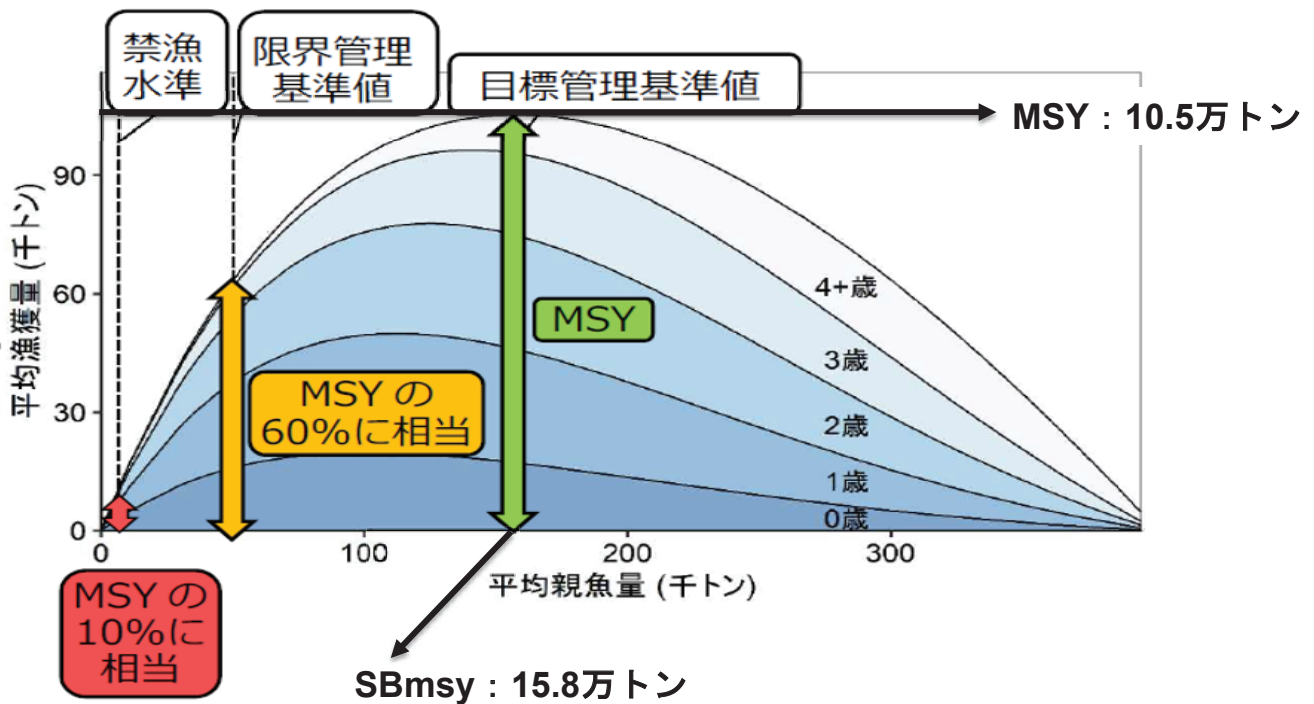
# 資源の動向



●資源量：2010年漁期以降減少傾向を示し、2019年漁期は9.4万トン

5

# MSY

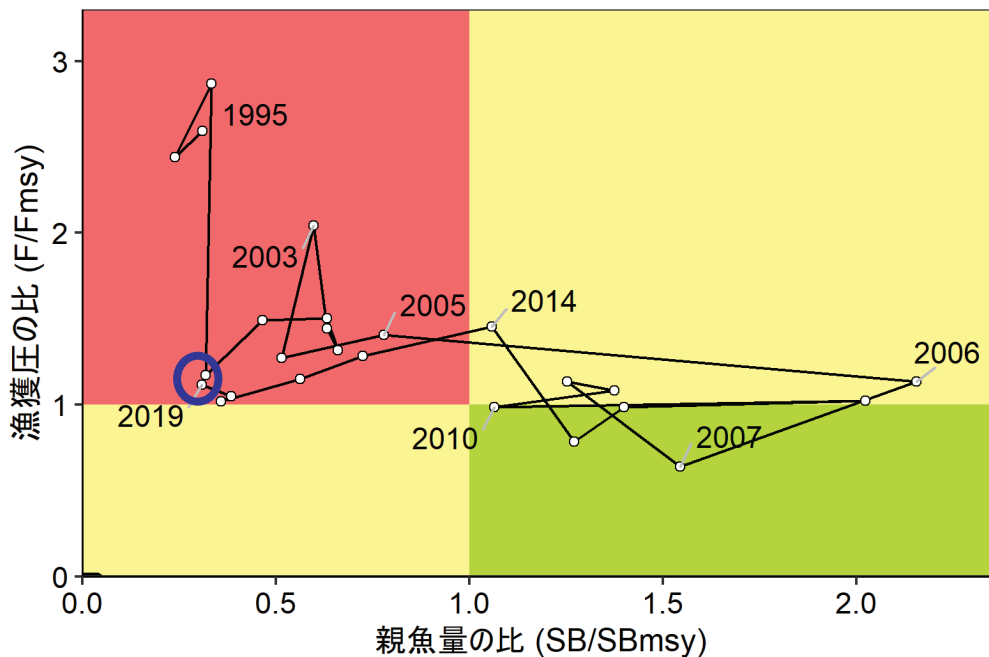


●最大持続生産量 (MSY) : 10.5万トン

●MSYを実現する親魚量 (SBmsy、目標管理基準値) : 15.8万トン

6

# 神戸プロット(チャート)



※神戸プロット: 資源水準と漁獲圧について、最大持続生産量を実現する水準と比較した形で過去から現在までの推移を表示したもの

●2019年漁期の親魚量: MSYを実現する親魚量を下回っている。

●2019年漁期の漁獲圧: MSYを実現する漁獲圧を上回っている。 7

## 将来の親魚量及び漁獲量の推移

将来の平均親魚量(千トン)

2030年に親魚量が目標管理基準値(15.8万トン)を上回る確率

$\beta$	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		2031
1.0	49	41	26	70	69	97	110	125	136	144	149	152	38%	155
0.9	49	41	26	71	73	104	121	139	153	162	168	170	51%	173
0.8	49	41	26	72	77	112	134	155	171	181	187	189	66%	191
0.7	49	41	26	74	81	121	148	173	192	203	208	209	78%	211

将来の平均漁獲量(千トン)

$\beta$	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
1.0	29	32	15	47	59	70	81	88	94	98	101	103	104
0.9	29	32	14	43	57	68	80	88	95	99	101	103	104
0.8	29	32	13	40	54	66	78	87	94	98	100	101	102
0.7	29	32	11	36	50	63	76	85	91	95	97	98	98

●「資源管理方針に関する検討会」にて取りまとめられた漁獲シナリオ( $\beta = 0.9$ )に基づき算出される2021年漁期の漁獲量は1.4万トン。